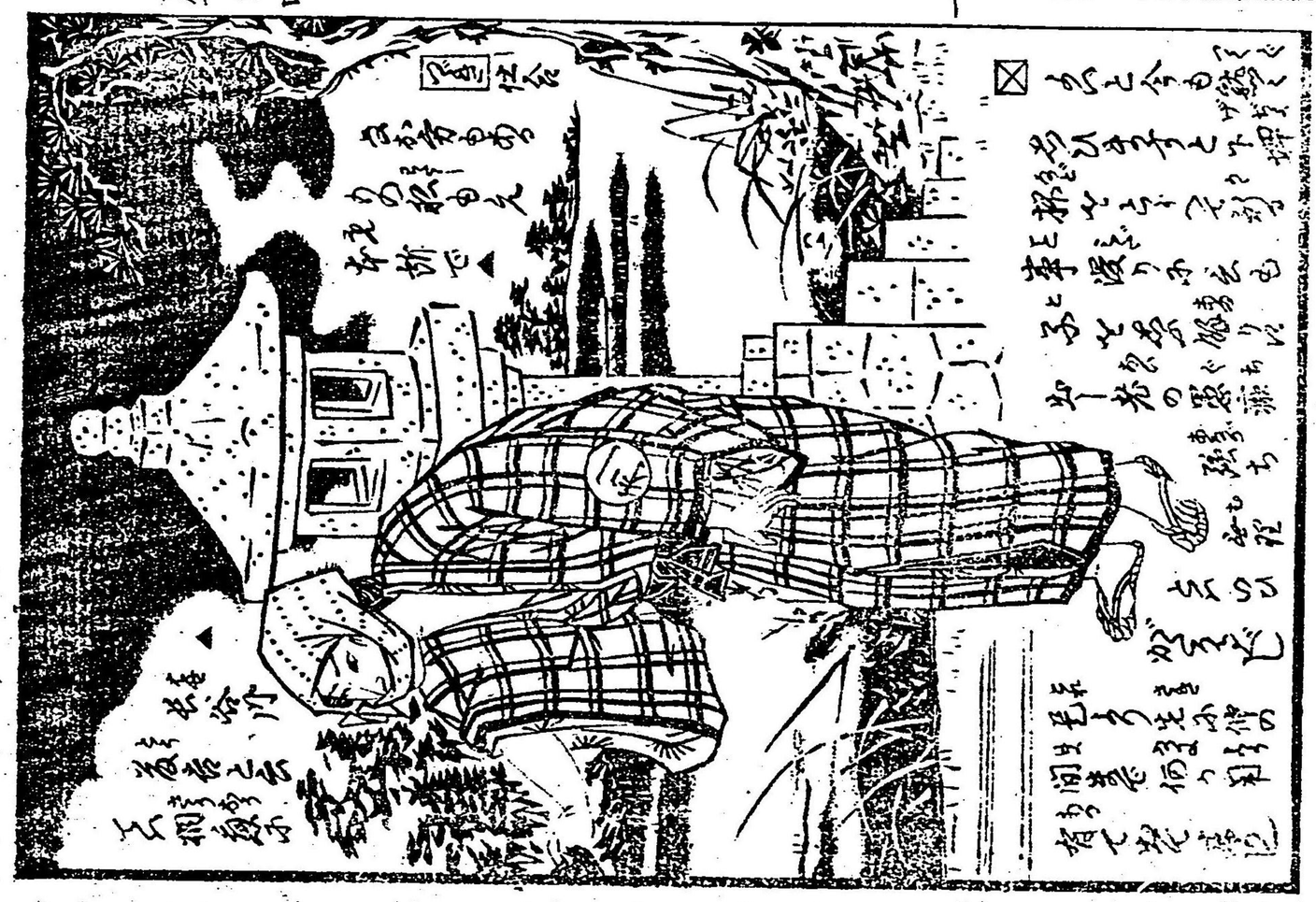
特42
920

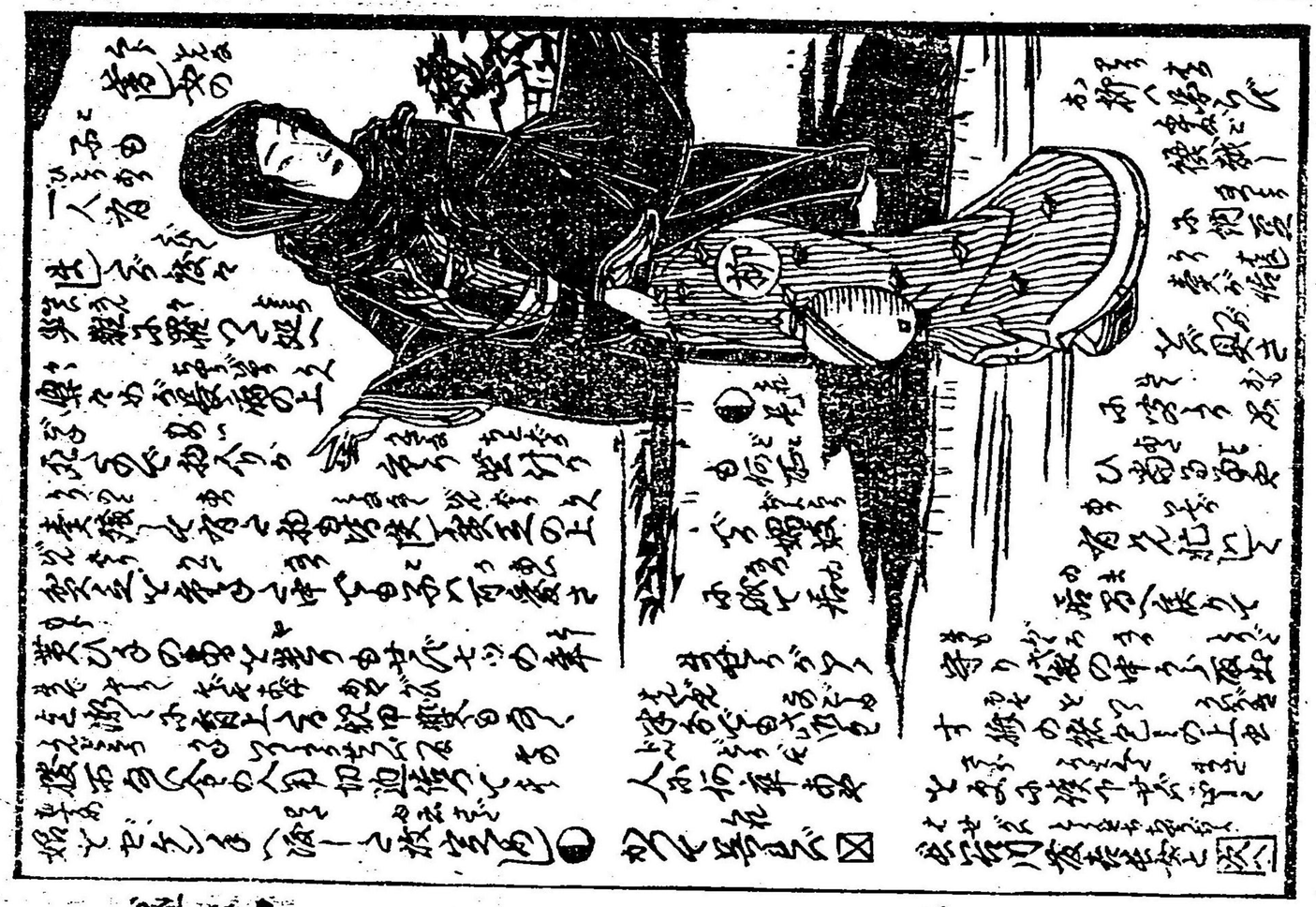
盛糸のうらてがみ
中の中巻

上よりつゞき
消も残らぬ程の間で声も
かぢけて納豆くと呼わるをお柳へ
ろ菜て好めるゆゑそ
え小婢に云付け
買せる近辺の
卜方お柳の足に
る夫
入てまようその
納豆屋が来る
女に大抵買て
や出しが遂にへ
下婢等と罰
深にあしが
同然てど◐

◐ろ勝て
手元
むや休
とあら
小徒す
曲でべ
亡方の
下し人へ
名へ在
茶の
上り
ざうだが
世の

次へ





つぎ 吸りんとある団子社の後へかゝる豆腐のの手拭暖簾ゆ手ぶら男がのりそう出て来るこの者の乳味乗さゆ足とりかゝと過れとなるとも生男へ疲ゆも孤より伏と捕へすイ雲井さん代換ゆ逃げもいて満足れ者れへと行るゆ手拭をぶり来て突出す新と姉こゆ灯新ゆ

上頭ごとあゝと延が一種の客でへ迎も出て見る笠へ屋とへ何ゆあひ切もゆべ紙とゆ

ゆ行つゝ正蔵の虎刺と

しゝ附出せ

と兵へ途中で新拭ゆ遣こゝへ

ゆ客ゆ入ひに

と云ゝ

ゆ行こ

浪人者

正四位

ゆ生出

ゆ九

ゆ出

そもゝゆ出ひも出ゆ深地面の手代利助ゆ出彼すくされゆべ小揆を、かゞゆ乱いく出事ゆ出らく後ゆ出出出おゝそもゝ中し

ゆ一ゝ候ー

お変りも出立

ゆせんでと放

と改ゝまるゆも新出

ゆくゝヤゆ変り

の手ゆ不ゝ程ゆア

人と呪ゝ完ニツ今で

と出せ出花の附合ぐ

ゆ出の外愛へ行ゝ何ゆ笑い

加ゝて今ぢゆア志佛

次へ

ゆ行ゝせゝとゝゆ

合筆に店の

地と大業

ゆ掛ゝゆでゝちゆち暖出

ゆ附出せゝゆ一陽きゝゆいゆ被

第十二愛ゆ分ゝ日ゆ聞ゝゆへと

減らゝゆ叩ゝそゝゆ出ゝゆ愛ゝゆ

ゆ表ゆも何ゆも行ゆ出出ゆ仮ゝて

合客ゆ湯ゝゝゆ体ゆヤア究

出で何ゆ出ゆも出ゆゝ居ゝゆ

彼地ゝ地ゝゝゆ付ゝゆ

表ゆ来遂ゆ地仲ゆへ

甚
郷

利

つぎ　人家ホさき田甫中助ラ若もアラ徳し既ホ約ものとなるとしも奥の時と孤歩る南
枕の光ラホ鬱
きそ利安
いまなく
流
散ラお新が鬱と
小提灯と拾ふて生徒
逃ラしホそお新ハ鹿の
聰とび通ビ公地ホホと
息ホき立上る対巡査へ
来ていと怨ラ
ホ同孔さ見

能

人の

呂様回しを
祝切ホ仏様しく如
何ラ人ラと南
枕の灯行ぐ被
面ラれば我意
ど上

委細と云ル
としラが
ラとなる
の面側ホ
ル二来ご
鬱ラどと拾ラ色
ホ付れば悪洋ホ
意ふく匂とび稼さん
とはラるがけと云ラ色ホ
鬱ふべホ臭様ひ色とを
解い悪洋の風体と同孔
せーのこぐ見ホ赤瞰者
柄ラ云ラふ鬱ラ宅ラ

ろ
佐ホ云ハッと
ラと京ハ

巡査幸爾
ま事いられねば

辺ビ
家ホ実ホ
きラ人ホラ
と為ラホ妙
ラ
ビ有股ホ
ホ郡ラの
事時ホ跡き
ホべ
阿波ホラ
ラホ人ラ内ラ
ホ柳の隠し自
付と今世話

ホ柳ホ又 次へ

つゞき

月日経ちて
あれこれと
こるが兎角

○先づ先やせんかう
と考へむ計り抜

○兼て伝ゝ聞お熊が
事何ゝ切く捜ゝ
とえんと河部い相五四
年頃ゝ田中へ来りて酒
宴自ど催ほ張る折も
折とて父義吉が出れば
来ると酒ゝ飲せば
忠伝利助が来りて来く
彼の夜撰つゝ出勢と
小提灯とび紙拠五ふ
何でもお柳と深い中
ゆゑ今日は旦那ふれ如と
笑ひ来ると云張て

ある事なへと

物の品
盗む紛失す
わ紙とお柳が
ぬれ衣を付る
と知ふ或時
水揚の面来
と浮山指出
さうと仕ち延と
お柳が足傷て弱りの
と寄めこれば生用い
品質疑ふ手傷亜と
今度旦那が出て来こう
自分の悪ずと

此年も六月ちう出
例の通り河部へ
出京して
る宿所の
定宿へ

お柳が強其云と云
寄むと云も旨も繁く
紛して事終放口じ
く喰違まるに柳
い焦ち旦那のお
え

の
写

上へ出異へ出そう
と面北と付んと立
掛ると河部へ押止

さうすれば

自然と已の名前の出るとまい成ね
と言さねべ何と捨御座候
仕合る弱
彼と附廻り念仏が尚も物を
お濃と云て列へ
お柳が見
根尾寿老
荘
彼の後
◆来筑町の裏家
父義者と一西に
祇園町一丁目
祇園も別田ゴ故
お庫婦女か

出不薦乳果
雲くや拾て お熊が生涯
美男で嫌せと云れに成り
引く沼不海銀由又来や
美やと お熊が後云ひ
合せ引止る紳士振払ひ
由せ不風し四五名仕ひて呂
何乳なく お柳が服と歩く旨の紙へ
添て拾せ就せ
出る美人の故美男由 友一家呂抵不遊ひ赤細と
なれば安が撒ぬと自分不る喰所へ呂しも多ちの吉
ゆて遊て行ひ美男ひ仕相のあるゆと
美男由く田中と引拾ひ庫人ひ服と出て自分ハ勇団祇田
大抵矢物茶
店の涙り去る
大抵甘い汁
ハ波ふれ
吸れて
えの上り
ハ文ふ
弾ふ
義
者ハ
念に
次へ

つぎ
樂る者仲と言ひ
宴の酒を不器中風に
彫り出し康永義こと
二年戦し揚句に
果敢なく
追く
義理の備城を
層む付りの場
一月の
年の
昭治十
遠目を遊く羽
深山を渡る鳥付け

合戦も五部しか
そ付上へどうせ
汚名を後代放
一線
廊へ流れ込む
の沼川橋へ入れる
月の中旬と
の宮法ふ
次へ

芳川春濤閣　岡本起泉作

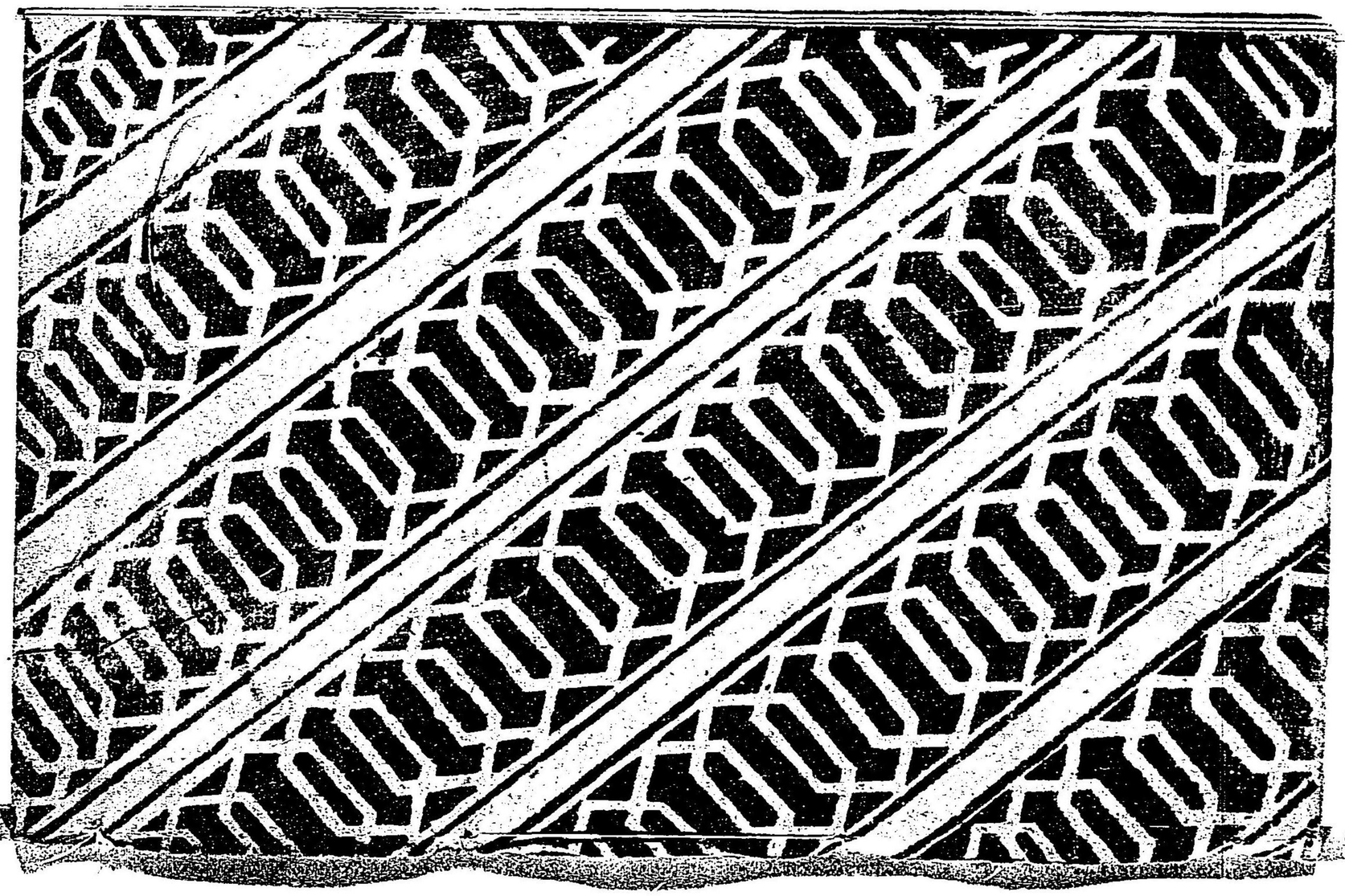
幻阿竹噺閣書三編　御所撫梅松録　十五編

川上行義復讐新話三編　名所細見東京新圖

澤村田之助曙草紙五編　武者切附本品々

坂東彦三郎流三編　新形折本品々

白菖阿繁顛末三編　石摺略暦品々

島田一郎梅雨日記五編　作者　岡本勘造　浅草瓦町十二番地

其名高梅毒婦小傳七編　板主　綱島亀吉